

II 研究主題

1 研究主題

<令和元年度研究主題>

郷土愛と生きる力を育む小中一貫教育の推進

<めざす児童生徒像>

夢や志をもち、他者とかかわり、自らを高めていこうとする子

郷土愛とは、ふるさとを愛する心である。

生きる力とは、自らの力で自らの人生を切り開くことのできる力である。

小中一貫教育とは、義務教育の9年間で児童生徒の教育にあたらうとする教育である。

2 主題設定の理由

本町の学校教育では、児童生徒一人一人に幅広い知識と教養、心豊かでたくましく生きる力を培うため、きめ細やかな教育を推進し、「豊かな創造性を育む人づくり」を目標として教育活動を展開してきた。しかし、人口の減少、高齢化に伴い児童生徒数が減少している現状では、人間関係が画一化しやすくなり、様々な価値観にふれあったり、互いに学びあったりする機会が少ない状況である。また、歴史的な文化資源や自然、地域の人材等、学校教育の場で十分に活用しているとはいえない状況がある。

そこで、小中学校が同じ目標をもち、義務教育の9年間で発達の特性に応じた取組を行うとともに、小中学校間及び地域との交流活動を活発にしていくことで、多くの価値観に触れ、他者の考えに影響を受けながら、郷土愛と生きる力を身に付けた児童・生徒を育成することができると考え、本主題を設定した。

3 研究の視点

子どもたちの「郷土愛」と「生きる力」は、多様な人とかかわり、様々な経験を重ねていく中で育まれていくと考える。子どもたちは、地域社会とのつながりの中で、絆を育み、豊かさ・たくましさを身に付けていく。つまり、子どもたちの確かな育ちを保障するには、信頼できる大人との多くのかかわりが不可欠であると言える。子どもたちが豊かで健やかな成長を遂げるために、また、各小中学校や子どもたちが抱える課題や家庭・地域が抱える課題等を解決していくためにも、学校・家庭・地域がそれぞれの役割を果たしつつ、社会総がかりでの教育の実現が必要である。

そこで、学校と地域の協働体制を確立していくために、小中一貫教育とコミュニティ・スクールの取組を一体的に進めていくこととする。現在、小中一貫教育の推進によって小中学校がネットワークを作り、教職員が互いに支援し合う体制を構築することで、地域住民や保護者が学校を信頼し、学校を支援する活動が充実してきている。さらに、小中一貫教育とコミュニティ・スクールを一体的に推進していくことで、熟議を基盤に学校と地域が協働していく気運をさらに高めていくことができるであろう。そして、熟議から育まれる新たな関係性を軸に実際に行動に移していくよりよい形に発展させていくこともできると考える。

具体的には、以下の視点で研究を進めていく。

(1) 教育段階の工夫

小中学校の9年間を表のように前期・中期・後期に区分し、発達段階に応じた教育を志向する。

教育区分 学年区分	前期教育				中期教育			後期教育	
	1年	2年	3年	4年	5年	6年	中1年	中2年	中3年
身につける力	コミュニケーション能力など、9年間の学びの基礎となる学力の指導の充実を図る。				小中一貫学習支援員による授業や小中学校教員の乗り入れ授業により、学習面、生徒指導面での小中の段差の解消を進めることを目指す。			中学校卒業後を見据え、学びに対する自発性・自主性を伸ばすことを目指す。	

(2) 確かな学力の育成

確かな学力の基礎となる教科の重点的指導に取り組む。

(3) 心の教育の充実

これまでの道徳教育の研究実践の土台に立ち、三つの教育段階ごとに指導方法を工夫し、より一層の充実を目指す。

(4) 健やかな心身の成長

児童生徒の健やかな心身の成長にかかわる指導に取り組む。

(5) 家庭・地域との連携

研究成果を学校運営協議会と共有し、学校・家庭・地域が連携した取組を進めていく。

4 令和元年度各部会

(1) 部会の構成および取組

○第1部会 「国語・生活・理科・社会・音楽」

教科ごとの9年間一貫した系統的な教育課程の編成

○第2部会 「図工・美術・技術・家庭」

教科ごとの9年間一貫した系統的な教育課程の編成

○第3部会 「算数・数学・体育」

教科ごとの9年間一貫した系統的な教育課程の編成

○第4部会 「外国語活動・外国語・英語」

教科ごとの9年間一貫した系統的な教育課程の編成

○第5部会 事務部会

小中学校の効率的かつ確実な事務の連携、調整等のあり方の研究 等